

一五

一九三一年

- (5) 〃 「三重県桑名郡柚井貝塚発見墨書土器」  
 (考古学雑誌二一一二)

一九三一年

- (6) 島田貞彦 「伊勢国桑名郡柚井貝塚に就いて」 (考  
 古学雑誌二二一〇)

一九三二年

- (7) 三重県教育委員会

「柚井の遺跡」(『三重考古図録』)

一九五四年

- (8) 鈴木敏雄 『三重県考古誌考 1 桑名郡多度町柚  
 井貝塚誌考 全』(三重県郷土資料叢書33)

一九七一年

(榮原永遺男)

## 秋田・払田柵跡

### 1 所在地

秋田県仙北郡仙北町(旧高梨村) 大字払田・同郡  
 千畑村本堂城廻

### 2 調査時期および機関・担当者

一九三〇年(昭5) 藤井東一

同年一〇月、文部省・上田三平

### 3 遺跡の種類

城柵跡

### 4 遺跡の年代

平安時代

### 5 木簡出土時期

(1) 一九三〇年、(3) 一九七二年(昭47) 一〇月

### 6 木簡の釈文および出土の事情等

- (1) ×□件 楠請取閤四月廿六日寺書生仙氏監」  
 [右カ]

七寸三分五厘×八分×一分五厘

- (2) ・「飽海郡隊長解 申請□□□□」 294×29×7 011

・「六月十二日 隊長春日旅□」

- (3) ・×□十火 大粮二石八斗八升 (153)×23×5 019

・×□二斗八升二合

(1)は現在所在不明だが、上田三平氏の報告によると、長森丘陵北部の「ホイド井泉趾」から東へ約二〜三尺はなれた土中より発見された。中央よりやや下方で二片に分離し、上端が少しく欠け、文字

面の両側に面取りを施している。墨書は、月日の下の記名は甚だ崩落して読み難いが、上方の「精請取」は極めて明確であるという。

下から五字目は、上田氏の報告では「寿」と読まれていたが、最近発見された、昭和十三年四月十八日付後藤宙外氏の手紙に付された「払田柵址より出土の木簡写」の見取図により、「書」である可能性がきわめて強くなった。また、この図によると、下から二字目と三字目の間は、他と比べてややあいており、墨痕らしきものが記されている。なお、右書状に、「高梨村払田後藤十兵衛(今東市)の孫某少年の採集せるもの也」とある点は注意される。

(2)は、藤井東一氏の報告によると、一九三〇年九月七日の「厨清水」(ホイド井泉趾)脇の調査によって、「懺悔」「厨家」「厨」などの文字のある墨書土器多数とともに出土したものである。長らく行方不明であったが、一九七六年に自然乾燥状態で発見され、右のように解説された。「飽海郡」は出羽国の郡名、「隊長」は隊正・五十長に同じか。

(3)は、一九七二年一〇月、「ホイド清水」で表面採集されたもの。材質はスギの柾目で、上半部を欠いている。現在は自然乾燥状態。

「火」は兵士一〇人で編成される単位。

# 7 関係文献

上田三平

『指定史蹟払田柵址』高梨村史蹟保存

会

一九三一年

藤井東一

「払田柵」(秋田考古会々誌二一四)

一九三一年

上田三平

「払田柵址」(『史蹟精査報告第三、払田柵址・城輪柵址』)

一九三八年

滝川政次郎

「短冊考——払田柵址出土の木札について——」(古代学七一二のち『法制史論叢第四冊、律令諸制及び令外官の研究』所収

一九五八年

奈良修介・豊島昂 『秋田県の考古学』

一九六七年

新野直吉

「払田柵址から新出土の木簡」(秋大史学二〇)

一九七三年

平川南

「秋田県払田柵跡・岩手県胆沢城跡・同落合遺跡出土の木簡」(第一回木簡研究集会記録)

一九七六年

沢城跡——(第三回木簡研究集会記録)

(栄原永遠男)

一九七九年

会

指定史蹟払田柵址

高梨村史蹟保存

一九三一年

一九三一年

一九三一年

一九三一年

一九三一年

一九三一年

一九三一年

一九三一年